

## 日吉台地下壕保存の会

## 会報

## 第6号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 044-62-1282 (寺田貞治方)



自衛隊市ヶ谷駐屯地の旧陸軍大本営の地下壕跡

天井に今でも作動する通風孔の換気扇が見える

一年前に、保存の会が発足したとき、私たちが高く掲げた目標に接近するために、より多くの会員の積極的な参加を得て、今年もまた活発な活動が展開されることをねがつてやまない。

自衛隊市ヶ谷駐屯地の旧陸軍大本営の地下壕跡天井に今でも作動する通風孔の換気扇が見える

資料蒐集の問題もある。数えあげれば、保存の会がやるべき仕事は山ほどあるのだが、私達がいつも忘れてはならないのは、私たちの目標が、無期的な地下構造物の調査、解明に限定されないということである。

## 目次

○2年目の活動に向けて	1
○第2回総会報告	2
○1989年度活動報告	2
○1989年度決算報告	3
○会則の1部改正について	3
○1990年度運営委員会計監査	3
○1990年度活動方針	4
○1990年度予算	4
○1990年度会費納入に就いてのお願い	4
○自衛隊市ヶ谷駐屯地の旧陸軍大本営の地下壕跡見学記	5
○編集後記	6

二年目の活動に  
向けて

会長

永戸多喜雄

日吉台地下壕保存の会は、過去一年間の様々な活動の成果を踏まえて、いよいよ二年目にさしかかろうとしている。すでにかなりの情報を集めた聴き取り調査は、これからも引続き行われ欠落した部分が埋められねばならないし、地下壕 자체に就いても、物理的な障害のため、未だ現状確認が済んでいない新幹線道床と立体的に交差している部分にも、万端の準備を整えて保存の会による調査のメスが加えられなければならない。

資料蒐集の問題もある。数えあげれば、保存の会がやるべき仕事は山ほどあるのだが、私達がいつも忘れてはならないのは、私たちの目標が、無期的な地下構造物の調査、解明に限定されないということである。

## 第二回総会

### 報告

1990年5月7日 第6号

日時	四月七日午後三時より
場所	慶應義塾藤山記念館 大会議室
受付	午後二時五〇分より
映画上映	午後三時より、 戦時中の映画 「戦ふ少国民」
紹介△△	次第
一、開会の辞	二、会長挨拶
三、議長選出	四、議事

一九八九年度 活動報告

①一九八九年度活動報告  
②一九八九年度会計報告  
③一九八九年会計監査

報告  
④会則の一部改正について  
の提案と、その説明  
⑤一九八九年度運営委員・  
会計監査の選出と承認  
⑥新会長挨拶  
⑦一九九〇年度活動方針案  
説明  
⑧一九九〇年度予算案説明

五、議長解任

六、閉会の辞  
議案の全てが一部修正され  
て承認されました。

会結成から、早くも1年が  
過ぎました。振り返ってみま  
すと、活動報告書にもありま  
すように、私たちは実に様々  
な活動をして参りました。こ  
のような活動が出来たのは、  
会員の方々のご支援とご協力  
があつたからだと思います。

本当に有難うございました。

会員の数も次第に増え、三  
月三一日現在で、会員二四七  
名・団体会員一組、賛助会員  
四名となりました。会報も順  
調に発行され、第五号まで出  
すことが出来ました。運営委  
員会は二回、幹事会は八回そ  
れぞれ開催され、会の活動の  
推進力として、大きな力を發  
揮しました。保存会の具体的  
な活動としては、地下壕見学  
会七回（会主催二回）、講演  
会一回、ゼミナール一回、ヒ  
ヤリング一回、学習会一回、

六、閉会の辞

議案の全てが一部修正され  
て承認されました。

行いました。

保存会の活動は、この一年  
間たびたびマスコミにも取り  
上げられ、かなり知られるよ  
うになりました。神奈川・毎  
日・産経・東京・松代などの  
新聞に延べ六回掲載され、N  
H.K., 日本TV, T.V. 神奈川  
などのテレビで延べ四回放映  
され、またラジオでも三・四  
回放送されました。全国各地  
の同じ様な保存の会にも知ら  
れるようになり、様々な情報  
の交換もできるようになりました。

最後に、会の最も重要な、  
会の目的である地下壕の保  
存と平和記念館の建設に向か  
ての動きについて述べたいと思  
います。会報でご存じのよう  
に、港北区役所の区政推進課  
では「日吉台地下壕利用計画  
策定調査」を一九八九年度の  
重点事業の一つとしてやつて  
います。推進母体は、保存の  
会、コンサルタンツ、区役所  
(調整係、区民相談室、建築  
課)で、プロジェクトチーム  
を組んで活動を進めています。  
事務局は区政推進課です。

調査活動は、隨時、保存の  
会の有志で進めてきました。  
その結果、当時の様子が少し  
づつ明らかになつてきました。  
しかし、朝鮮人労働者の当時  
の様子は、まだはつきりして  
おりませんので、この方面の  
調査が必要です。また、文献  
による調査が余り進んでいま  
せんので、この方面にも力を  
入れる必要があります。更に、  
神奈川県や千葉県には、たく  
さんの地下壕がありますが、  
これも本格的に調べたという  
話を聞いておりませんので、

今までに、会合は三回あり、  
保存に向けていろいろと話し  
合つたり、保存会の調査資料  
を渡したり、地元の方や地下  
壕で仕事をしていた旧海軍の方  
から話を聞いたりしました。  
また、区の職員が、すでに保  
存に踏み切り公開している松  
代や、保存に向けて調査をし  
ている西宮市に視察に行きました。  
した。プロジェクトチームで  
は、八月までに調査資料をま

至急に関連の調査活動として  
やる必要があるのではないか  
と思います。

とめて、来年度の予算に間に合うように、区から市に「田吉台地下壕保存の基本構想報告書」を提出する予定であるとのことです。したがって、保存会の活動も今年から来年度にかけて正念場を迎えるかと思いますので、今後ともこれまで以上にご支援、ご協力ををお願い致します。

## 一九八九年度 決算報告

(内訳)  
(一八〇〇円 本  
(三六六〇円 本  
(五〇〇〇円 本  
(一〇〇〇〇円 本  
(一三〇〇〇円 本  
一口)

四六〇四七

110000日元五口半

会則の一  
部改

一九九〇年度

唐宋元詩

旧来の会則

**第一二集(付題)二の会則**  
は、一九八九年四月八日より  
施行する。

**第一〇条** **(経費)** この会の  
経費は、会費とその他の収入  
によつてまかなう。会費は、  
年間個人一口一〇〇〇円、高  
校生以下一口五〇〇円、団体  
一口二〇〇〇円で、それそれ  
一口以上とする。

**第一  
一案(付賄)二の会則**  
は、一九九〇年四月七日より  
施行する。

以上の通り報告します  
一九九〇年四月二日  
事務局長 寺田貞治

事務局長 寺田貞治  
この報告により收支を監

ることを認めます。

幹事	秋本謙三	永戸多喜雄
佐藤林平	田辺昇	鮫島重俊
小瀬昭夫	比留間淳一	皆川法治
茂呂秀宏	谷栄	谷栄
小園優子	久我俊二	久我俊二
林榮美子	林榮美子	林榮美子
梅沢滋隆	寺田貞治	寺田貞治
大西章	林ちづ	林ちづ
中沢正子	加賀谷欣之助	森山高行
天野喬子	森山喬子	天野喬子

事務局長  
會計監察

卷之三

會計監查

加賀谷欣之助  
森山 高行

# 一九九〇年度 古活動方針

今年度も、昨年度に引き続き、戦争と平和を考える原点として、地下壕の保存と平和記念資料館の建設に向けて、さらに活発な運動を展開したいと考えています。

戦争体験が風化していく中で、最近、地下壕を保存しようとする動きが全国的に盛り上がりかけています。私たちの運動も、全国の仲間達と連携しながら進めていきたいと思います。幸いにして、各地の地下壕の保存会や研究家などとのネットワークが出来つつあり、今年の夏には交流会を持とうという計画も聞いております。

また、中野区議会では、去る三月二六日に「平和条例」を可決しました。この条例を見ると、いま私たちがやっている運動が生きてくるような心強さを感じます。非核平和都市宣言をした自治体は今年二月現在で一四五〇を超えて、世界的な緊張緩和の中で、ま

すます平和への願いが高まる

ことでしょう。

私たちの運動も、会発足以來、新聞・テレビ・ラジオなどマスコミによってかなり知られるようになり、また調査を通じて、いろいろなことが次第に明らかになってきましたが、今年度は更にこれらの運動を発展させ、大きな成果をえたいと思います。

具体的な活動としては、一、聞き取り調査、文献調査を更に積極的に行い、当時の歴史を明らかにする。

二、見学会、講演会、ヒヤリング、シンポジュームなどを開催し、理解を深める。

三、全国の関係団体・研究家などと連携し交流を深め、情報などの交換をする。

四、区や市に働きかけ、あるいは協力して、特に区のプロジェクトチームを通して、地下壕の保存と平和記念資料館の建設の具体化に向けて運動を続ける。

五、会報の発行、出来ればP.R.用のパンフレットの発行なども行う。

役所の動きとしては、区で八月までにプロジェクトチームがまとめた資料を元にして、市に来年度の事業計画として、地下壕の保存について何等かの提案を市にするのではないかと思いません。私たちも、これを見守り、目的の実現まで粘り強く頑張っていきたいと思います。宜しくお願ひします。

資料費	一〇〇〇〇円
謝礼	五〇〇〇円
予備費	一一三三〇三円
合計	四三三三〇三円

## 一九九〇年度

### 予算

#### 収入の部 会費

一〇〇〇円・一口*	二四七人＝二四七〇〇円
繰越金	一八六三〇三円
合計	四三三三〇三円

一九九〇年度の会費をまだお納めになつていられない方は、なるべく早くお納め下さいますようお願い申し上げます。

会費は、個人一口一〇〇〇円、高校生以下一口五〇〇円、団体一口二〇〇〇円で、それ

ぞれ一口以上です。

直接事務局にお届け頂いても、郵便振込でも結構です。郵便振込番号・名称は、次の通りです。

会議費	二〇〇〇〇円
事務費	二〇〇〇〇円
印刷費	三〇〇〇〇円
郵送費	一〇〇〇〇〇円

横浜2-162997  
日吉台地下壕保存の会

自衛隊市ヶ谷  
駐屯地の  
旧陸軍大本營  
の地下壕跡

見学記

寺田貞治

四月二日、日吉台中学校の  
茂呂・谷藤両先生とその生徒  
四人と私の七人で、自衛隊市  
ヶ谷駐屯地の中にある旧陸軍  
大本營の地下壕跡を見学した。

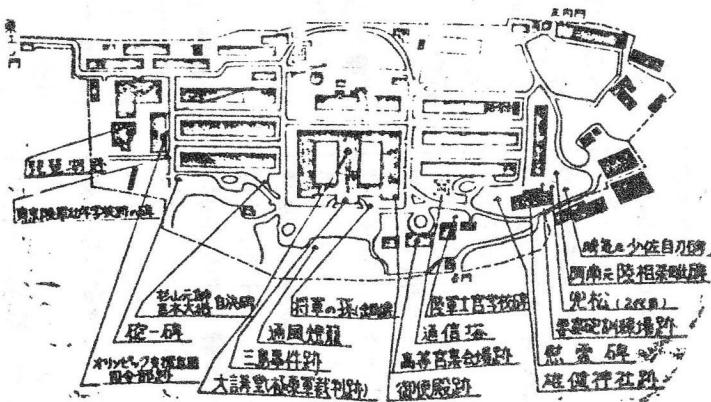
一〇時に訪問し、広報担当の  
佐藤氏の案内で一時三〇分  
ごろまで見学した。まず、自  
衛隊の施設を見学した。大正  
五年に建てた小さな社（御神  
体はない）、自衛隊員の死亡  
者（約一五〇〇人）の慰靈碑、  
兜松、敗戦直後自刃した將軍  
の碑、旧陸軍の要塞砲などを  
見学したのち、建物の一部に  
ある記念館に入り、市ヶ谷台  
の沿革や施設などについて話  
を聞き、様々な遺品を見て回  
った。

市ヶ谷駐屯地の施設は、  
東西面積二二六八〇四m<sup>2</sup>  
南北長 三四五m  
周囲長 二八〇〇m  
二、建物棟数 一一〇棟  
三、収容人員 約五八〇〇名

一六メートルの所にある地下  
壕の通風の役目を果たしてい  
る灯塔である。地下壕には大  
きな二つの灯塔は、その下  
に延びる幅約四、三メートル、長さ  
約五〇メートルの地下壕に出  
た。ここは仕切つて室として  
使用していたという。北の端  
には水洗便所もあった。これ  
と同じ地下壕が西に三二・八  
メートル間隔で平行にあと二  
本あり、更にこれらを結んで  
東西に平行に二本の地下壕が

市ヶ谷台の沿革										
陸軍士官学校時代					大本營時代			米軍時代		自衛隊時代
明	大正	昭	和		35	36	37	42	58	東部方面連絡新設
4	7	12	16	20	21	22	23	34	35	東部方面連絡新設
										第32回連絡新設
										第33回連絡新設
										第34回連絡新設
										第35回連絡新設
										第36回連絡新設
										第37回連絡新設
										第38回連絡新設
										第39回連絡新設
										第40回連絡新設
										第41回連絡新設
										第42回連絡新設
										第43回連絡新設
										第44回連絡新設
										第45回連絡新設
										第46回連絡新設
										第47回連絡新設
										第48回連絡新設
										第49回連絡新設
										第50回連絡新設
										第51回連絡新設
										第52回連絡新設
										第53回連絡新設
										第54回連絡新設
										第55回連絡新設
										第56回連絡新設
										第57回連絡新設
										第58回連絡新設

第1回 市ヶ谷駐屯地の史跡



ある(第2図)。第2図のイ、ロの位置に直径八〇センチはあるかと思われる通風孔があり、地上の灯楼に抜けているのである。

ロの位置にある通風孔の換気扇は今でも作動するのには驚いた。ハの位置には陸軍大臣執務室があつたという。二の

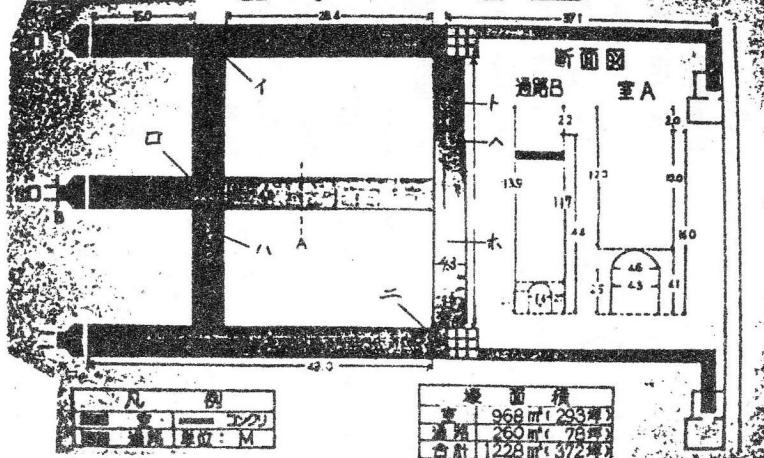
位置からも大講堂に出る通路がある。二の位置の地下壕の天井のコンクリートの割れ目から滲み出た水滴が、間をおいてポタリポタリと落ち、天井には鐘乳石を床には石筍を造っていた。南側の地下壕の水、ヘ、トの位置には、それぞれ食堂、炊事場、風呂場な

どがあつたという。大本営の地下壕だけあつて日吉の地下壕よりもはるかに頑丈に立派に出来ていた。天井のコンクリートの厚さは約四メートルもあるという。延べ面積は一二二八平方メートルである。この地下壕は、昭和一六年から一七年にかけて約一年半で造られ、工法は露天掘り式であった。地下壕の見学を終えて元の出入り口から地上に出了。出入口は北の方にも三箇所あり、靖国通りに出るようだ。この地下壕も一九九五年の防衛庁の移転にともなつて取り壊される予定であるといふ。

地元の地下壕を見て、橋中佐の長靴を息子がはいて喜んでいる姿を描いた「将軍の孫の像」(北村西望作)を見たり、一

等三角点を見たりした。しばらく休憩所で休んだ後、頃合を見て自衛隊の昼食をいただいた。味はまあまあであったが、御飯は好きなだけ頂けることが出来た。我々が市ヶ谷の駐屯地を出たのは、一二時三〇分ごろであった。

## 第2図 地下壕略図



### 編集後記

- ◆慌ただしく総会の準備をして、総会を迎えた。しかし、横浜市長選挙、市議の補欠選挙の投票日の前日で、総会の出席率は悪かった。
- ◆年度初めで忙しかったせいもあるが、総会が終わってほつとしている間に二ヶ月が経ってしまった。
- ◆総会の報告を知らせなくてはと思い、ゴーリキンウイークを返上して、会報第6号の編集に取り掛かった次第である。
- ◆総会の資料を読み直してみると、改めてその誤植の多さに呆れるばかり我ながら嫌になる。
- ◆第6号は間違いのないようにと、ワープロを打ちながら何度も見直す。会員の皆さんのことを考えながら・・・
- ◆今後とも宜しくお願ひします。